

## 簡易な収入(所得)見込額の申立書 【家計急変者】

○「令和5年度福井市低所得世帯電力・ガス・食料品等価格高騰支援給付金(7万円)(家計急変世帯分)申請書」と一緒にご提出ください。

① 下記にチェック(☑)してください。

私の世帯は、予期せず家計が急変し、住民税非課税世帯となる水準相当に収入が減少しました。

(記入上の注意)

『予期せず家計が急変』した事には、定年退職による収入の減少や、年金が支給されない月や事業活動に季節性があるもの等の通常収入が得られない月の収入等、当該月に収入がない事が予め明らかであるものは**該当しません**。

② 申請書の「2. 申請者が属する世帯の状況」に記入した者全てについて記入してください。

	(フリガナ) 氏 名	左欄の者が 扶養する者 の数 ①	令和5年 度住民税 課税状況 ②	障害者控除等 の適用 ③	収入の減少 のあった年 月 ④	任意の1か月の収入⑤			年間収入 見込額 D×12 ⑥	非課税相当 収入限度額 ⑦
						給与収入 【A】	事業収入 又は 不動産収入 【B】	年金収入 【C】		
1		人	<input type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和 5年	収入合計額 A+B+C=【D】			円	円
	月				円	円	円			
2		人	<input type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和 5年	収入合計額 A+B+C=【D】			円	円
	月				円	円	円			
3		人	<input type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和 5年	収入合計額 A+B+C=【D】			円	円
	月				円	円	円			
4		人	<input type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和 5年	収入合計額 A+B+C=【D】			円	円
	月				円	円	円			
5		人	<input type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和 5年	収入合計額 A+B+C=【D】			円	円
	月				円	円	円			

(記入上の注意)

- 「左欄の者が扶養する者の数」欄には、同居・別居にかかわらず、左欄の者が扶養している親族の数を記入して下さい(扶養控除等申告書で届け出ている人数)。
- 「令和5年度住民税課税状況」欄には、該当する項目にチェック☑して下さい。
- 「障害者控除等の適用」欄は、該当する控除を受けている場合には、チェック☑して下さい。
- 「収入の減少があった年月」欄には、住民税非課税相当の収入であった、令和5年1月から令和5年12月の間の任意の1か月の年月を記入して下さい。
- 「任意の1か月の収入」欄には、住民税非課税相当の収入であった、令和5年1月から令和5年12月の間の任意の1か月の収入を記入して下さい。

給与収入	※給与収入がある場合にご記入下さい。 ※給与明細書などの収入額が分かる書類をご提出下さい。
事業収入又は 不動産収入	※事業収入又は不動産収入がある場合にご記入下さい。 ※帳簿などの収入額が分かる書類をご提出下さい。
年金収入	※公的年金収入がある場合にご記入下さい。 ※年金決定通知書、年金額改定通知書、年金振込通知書などの支給額がわかる書類をご提出下さい。

※給与収入、事業収入又は不動産収入、年金収入いずれの場合も、法令等により非課税と規定されているものについては、これらの収入として計上する必要はありません。

- 「年間収入見込額」欄には、D欄(収入合計額)を1.2倍した金額を記入して下さい。
- 「非課税相当収入限度額」には、①欄の人数に応じて、下表から該当する非課税相当収入限度額を記入して下さい。  
(早見表)

扶養している親族の状況	非課税相当収入限度額
単身又は扶養親族がいない場合	96.5万円
配偶者・扶養親族(1名)を扶養している場合	146.9万円
配偶者・扶養親族(計2名)を扶養している場合	187.7万円
配偶者・扶養親族(計3名)を扶養している場合	232.7万円
配偶者・扶養親族(計4名)を扶養している場合	277.7万円
障がい者、未成年者、寡婦、ひとり親の場合	204.3万円

※これを超える場合は、上記の被扶養者の人数に応じた区分を適用

③ 年間所得により申し立てる場合、申請書の「2. 申請者が属する世帯の状況」に記入した全ての者について記入して下さい。

	(フリガナ) 氏 名	【収入】 年間収入見込額 ⑥	【控除】			【所得見込】 年間所得見込額 ⑪	【非課税相当額】 非課税所得 限度額 ⑫
			給与所得 控除額 ⑧	事業収入 等の経費 ⑨	公的年金 等控除 ⑩		
1		円	円	円	円	円	円
2		円	円	円	円	円	円
3		円	円	円	円	円	円
4		円	円	円	円	円	円
5		円	円	円	円	円	円

(記入上の注意)

⑥「年間収入見込額」欄には、表面の年間収入見込額(⑥欄)の額を転記して下さい。

⑧「給与所得控除額」欄には、以下の算定式により控除額を計算の上、ご記入下さい。

- ①表面【A】欄×12の額(=給与収入分)が162.5万円以下 → 55万円
- ②表面【A】欄×12の額(=給与収入分)が162.5万円超180万円以下 → 給与収入分×40%－10万円
- ③表面【A】欄×12の額(=給与収入分)が180万円超360万円以下 → 給与収入分×30%＋8万円
- ④表面【A】欄×12の額(=給与収入分)が360万円超660万円以下 → 給与収入分×20%＋44万円

⑨「事業収入等の経費」

- ①事業収入又は不動産収入を記入した方は、当該収入のために要した経費の1/2か月相当額をご記入下さい。
- ②帳簿等の上記の経費がわかる書類をご提出ください。

⑩「公的年金等控除」の欄には、以下の算定式により控除額を計算の上、ご記入ください。

- (65歳未満の方) 公的年金等収入分 → 控除額  
 : 60万円以下 → 公的年金等収入分的全額  
 : 60万円超130万円未満 → 60万円  
 : 130万円以上410万円未満 → 公的年金等収入分×0.25+27万5千円  
 : 410万円以上770万円未満 → 公的年金等収入分×0.15+68万5千円
- (65歳以上の方) 公的年金等収入分 → 控除額  
 : 110万円以下 → 公的年金等収入分的全額  
 : 110万円超330万円未満 → 110万円  
 : 330万円以上410万円未満 → 公的年金等収入分×0.25+27万5千円  
 : 410万円以上770万円未満 → 公的年金等収入分×0.15+68万5千円

⑪「年間所得見込額」の欄には、以下の算定式により計算の上、ご記入ください。

⑪年間所得見込額 = ⑥年間収入見込額 - ( ⑧給与所得控除額 + ⑨事業収入等の経費 + ⑩公的年金等控除 )

⑫「非課税所得限度額」には、①欄の人数に応じて、下表から該当する非課税相当所得限度額を記入してください。

※限度額は下の早見表から、①欄の「左欄の者が扶養する者の数」に応じた状況に対応する欄の金額を記入してください。  
 ※下表の「扶養している親族の状況」は、「申請者本人」「同一生計配偶者(所得金額48万円以下の者)」「扶養親族(16歳未満の者も含む)」の合計人数です。

(早見表)

扶養している親族の状況	非課税相当所得限度額
単身又は扶養親族がない場合	41.5万円
配偶者・扶養親族(1名)を扶養している場合	91.9万円
配偶者・扶養親族(計2名)を扶養している場合	123.4万円
配偶者・扶養親族(計3名)を扶養している場合	154.9万円
配偶者・扶養親族(計4名)を扶養している場合	186.4万円
障がい者、未成年者、寡婦、ひとり親の場合	135.0万円

※これを超える場合は、上記の被扶養者の人数に応じた区分を適用

# 簡易な収入(所得)見込額の申立書 【家計急変者】

記入例

○「令和5年度低所得世帯電力・ガス・食料品等価格高騰支援給付金(7万円)(家計急変世帯分)申請書」と一緒にご提出ください。

① 下記にチェック(☑)してください。  
 私の世帯は、予期せず家計が急変し、住民税非課税世帯となる水準相当に収入が減少しました。

(記入上の注意)  
『予期せず家計が急変』した事には、定年退職による収入の減少や、年金が支給されない月や事業活動に季節性があるもの等の通常収入が得られない月の収入等、当該月に収入がない事が予め明らかであるものは該当しません。

申請書の『2.申請者が属する世帯の状況』に記載した全ての者の状況を記載して下さい。記載した者全てについて記入してください。

⑥年間収入見込額が⑦非課税相当収入限度額より低ければ支給対象となります。その場合、裏面は記載不要です。

氏名	左欄の者が扶養する者の数	令和5年度住民税課税状況	障害者控除等の適用	収入の減少があった年月	年間収入見込額			⑥	⑦
					A	B	C		
1 福井 太郎	1 人	<input checked="" type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和5年5月	120,000円	0円	0円	1,440,000円	1,469,000円
2 福井 花子	0 人	<input type="checkbox"/> 課税 <input checked="" type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和5年5月	0円	0円	0円	0円	0円

扶養人数(=扶養控除等申告書に記載の人数)を記載し、下表<A>から人数に対応する区分の非課税相当収入を⑦欄に記載して下さい。

記載例②(所得による申請となる場合)

氏名	左欄の者が扶養する者の数	令和5年度住民税課税状況	障害者控除等の適用	収入の減少があった年月	年間収入見込額			⑥	⑦
					A	B	C		
1 嶺北 次郎	1 人	<input checked="" type="checkbox"/> 課税 <input type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和5年2月	140,000円	0円	0円	1,680,000円	1,560,000円
2 嶺北 桜	0 人	<input type="checkbox"/> 課税 <input checked="" type="checkbox"/> 非課税 <input type="checkbox"/> 未申告	<input type="checkbox"/> 障害者控除 <input type="checkbox"/> 寡婦(夫)控除 <input type="checkbox"/> ひとり親控除	令和5年2月	0円	0円	0円	0円	0円

- (記入上の注意)
- 「左欄の者が扶養する者の数」欄には、同居・別居にかかわらず、左欄の者が扶養している親族の数を記入して下さい。(扶養控除等申告書で届け出ている人数)
  - 「令和5年度住民税課税状況」欄には、該当する項目にチェック☑して下さい。
  - 「障害者控除等の適用」欄は、該当する控除を受けている場合には、チェック☑して下さい。
  - 「収入の減少があった年月」欄には、住民税非課税相当の収入であった、令和5年1月から令和5年12月の間の任意の1か月の年月を記入して下さい。
  - 「任意の1か月の収入」欄には、住民税非課税相当の収入であった、令和5年1月から令和5年12月の間の任意の1か月の収入を記入して下さい。

給与収入	※給与収入がある場合にご記入下さい。 ※給与明細書などの収入額が分かる書類をご提出下さい。	記載例②の場合、⑥年間収入見込額の方が⑦非課税相当収入限度額より高いため、所得による申請となります(裏面を記入)。
事業収入又は不動産収入	※事業収入又は不動産収入がある場合にご記入下さい。 ※帳簿などの収入額が分かる書類をご提出下さい。	
年金収入	※公的年金収入がある場合にご記入下さい。 ※年金決定通知書、年金額改定通知書、年金振込通知書などの支給額がわかる書類をご提出下さい。	

※給与収入、事業収入又は不動産収入、年金収入いずれの場合も、法令等により非課税と規定されているものについては、これらの収入として計上する必要はありません。

- 「年間収入見込額」欄には、D欄(収入合計額)を1.2倍した金額を記入してください。
- 「非課税相当収入限度額」には、①欄の人数に応じて、下表から該当する非課税相当収入限度額を記入してください。(早見表)

扶養している親族の状況	非課税相当収入限度額
単身又は扶養親族がいない場合	96.5万円
配偶者・扶養親族(1名)を扶養している場合	146.9万円
配偶者・扶養親族(計2名)を扶養している場合 <A>	187.7万円
配偶者・扶養親族(計3名)を扶養している場合	232.7万円
配偶者・扶養親族(計4名)を扶養している場合	277.7万円
障がい者、未成年者、寡婦、ひとり親の場合	204.3万円

※これを超える場合は、上記の被扶養者の人数に応じた区分を適用

記載例①のように、収入で申請する場合、本欄の記入は不要

③ 年間所得により申し立てる場合、申請書の「2. 申請者が属する世帯の状況」に記入した全ての者について記入してください。

記載例② (所得による申請となる場合)		【収入】		【控除】			
氏名	年間収入	⑥	⑧	⑨	⑩	扶養人数に応じて、下表<B>の該当する金額を記入して下さい。	
						⑪	⑫
1 レイホク ジロウ 嶺北 次郎	1,680,000	円	800,000	円		880,000	919,000
2 レイホク サクラ 嶺北 桜	0	円		円			
3							
4							
5							

(記入上の注意)

⑥ 「年間収入見込額」欄には、表面の年間収入見込額(⑥欄)の額を転記して下さい。

⑧ 「給与所得控除額」欄には、以下の算定式により控除額を計算の上、ご記入ください。

- ① 表面【A】欄×12の額(=給与収入分)が162.5万円以下 → 55万円
- ② 表面【A】欄×12の額(=給与収入分)が162.5万円超180万円以下 → 給与収入分×40% - 10万円
- ③ 表面【A】欄×12の額(=給与収入分)が180万円超360万円以下 → 給与収入分×30% + 8万円
- ④ 表面【A】欄×12の額(=給与収入分)が360万円超660万円以下 → 給与収入分×20% + 44万円

⑨ 「事業収入等の経費」

- ① 事業収入又は不動産収入を記入した方は、当該収入のために要した経費の1/2か月相当額をご記入ください
- ② 帳簿等の上記の経費がわかる書類をご提出ください。

⑩ 「公的年金等控除」の欄には、以下の算定式により控除額を計算の上、ご記入ください。

- (65歳未満の方) 公的年金等収入分 → 控除額
  - : 60万円以下 → 公的年金等収入分的全額
  - : 60万円超130万円未満 → 60万円
  - : 130万円以上410万円未満 → 公的年金等収入分×0.25 + 27万5千円
  - : 410万円以上770万円未満 → 公的年金等収入分×0.15 + 68万5千円
- (65歳以上の方) 公的年金等収入分 → 控除額
  - : 110万円以下 → 公的年金等収入分的全額
  - : 110万円超330万円未満 → 110万円
  - : 330万円以上410万円未満 → 公的年金等収入分×0.25 + 27万5千円
  - : 410万円以上770万円未満 → 公的年金等収入分×0.15 + 68万5千円

⑪ 「年間所得見込額」の欄には、以下の算定式により計算の上、ご記入ください。

⑪ 年間所得見込額 = ⑥年間収入見込額 - (⑧給与所得控除額 + ⑨事業収入等の経費 + ⑩公的年金等控除)

⑫ 「非課税所得限度額」には、①欄の人数に応じて、下表から該当する非課税相当所得限度額を記入してください。

※限度額は下の早見表から、①欄の「左欄の者が扶養する者の数」に応じた状況に対応する欄の金額を記入してください。  
 ※下表の「扶養している親族の状況」は、「申請者本人」「同一生計配偶者(所得金額48万円以下の者)」「扶養親族(16歳未満の者も含む)」の合計人数です。

(早見表)

扶養している親族の状況	非課税相当所得限度額
単身又は扶養親族がない場合	41.5万円
配偶者・扶養親族(1名)を扶養している場合	91.9万円
配偶者・扶養親族(計2名)を扶養している場合	123.4万円
配偶者・扶養親族(計3名)を扶養している場合	154.9万円
配偶者・扶養親族(計4名)を扶養している場合	186.4万円
障がい者、未成年者、寡婦、ひとり親の場合	135.0万円

※これを超える場合は、上記の被扶養者の人数に応じた区分を適用